No.	4	分類	2－(2)－ア	資料名	折り鶴	学年	1年	領域	道徳	4－(3)

1　ねらい

○　障害のある人に対する自分の意識に目を向け、望ましい関係の作り方を考え、実践する力を身につける。

2　趣旨

○　障害のある人に対して、人間性を見ようとせずに、見かけで能力を判断したり、同情したりすることがある。実際に交流し、互いのことを「知る」ことで偏見や差別をなくしていくことが必要である。

○　本資料は、小さな頃は純粋な気持ちで加代と接し、その良さを自然に理解していた「るみ子」が、成長するにつれて、加代を避けるようになっていたが、見舞いに来てくれた加代が自分を心配してくれていることを感じ、あらためて加代の良さを認識し、友だちであり続けたいと考える姿を描いている。

3　配慮事項

○　障害のある生徒や障害のある家族がいる生徒が在籍する場合は、事前にその思いや願いを知ったり、障害の状況を理解するなど配慮が必要である。

4　展開例

学　習　内　容	指　導　上　の　留　意　点
1　小学校時代の加代と「るみ子」の関係について話し合う。	
加代と「るみ子」は小学校時代、どのような関係でしたか。	
・いっしょによく遊んだ。 ・いっしょにいると楽しかった。 ・加代が成功するとうれしかった。	・「自分のことのようにうれしくて、いっしょにはしゃぎ回った。」の部分に、二人が純粋にお互いの良さを認め合っていたことを理解させる。
2　中学生になってからの加代に対する「るみ子」の思いについて話し合う。	
なぜ、「るみ子」は小学校のころのように加代と遊べなくなったのでしょう。	
・忙しくなって自分の生活で精一杯になった。 ・話が合わなくなった。 ・加代といっしょにいることで、周りの目が気になった。	・忙しさのなかで、周りの人を思いやる気持ちが薄れていくことがあること、それが自分自身の気持ちの豊かさを失わせていくことを考えさせたい。 ・誰にでも、周囲の目が気になったり、偏見が生じることがあることを認識させる。
3　鶴を見た時の「るみ子」の気持ちについて話し合う。	
加代のくれた鶴を見て、「るみ子」はどう思ったのでしょう。	
・小学生のころのことを思い出した。 ・自分の回復を心から願ってくれていることがうれしかった。 ・加代のことを笑った友だちのことを残念に思った。	・一途に自分のことを心配してくれる加代の様子から、加代の心の美しさや優しさ、一生懸命さを再確認したるみ子の気持ちを押さえる。 ・加代の本当の良さをみんなに伝えたいというるみ子の気持ちを捉えさせる。
4　加代のもつ力について話し合う。 ・強い気持ちをもっている。 ・人の気持ちの痛みが分かる。	・障害のある人から学ぶことが多くあり、助けたり助けられたりしながら、共に暮らしていきたいという気持ちをもたせたい。